

なにか強い単一のルールではなく、複数の条件が重なることで現れてきた、街の中や身の回りにある、雑多な状態や風景。それらは中途半端に前にも後にも可能性を残して、なにかが欠けたとしてもゆるやかに存在する。

それらは、意味や意図が見えにくかったり弱くなっていて、断片的であってもイメージを残し、個々が勝手な補完・勘違い、解釈をすることを許容する。

欠落すると同時に、一方でそこにはなにか残留するものがある。

それは残ってほしいものかもしれないし、残ってほしくないものかもしれない。

けれど、他者との間のそれらの相違こそ必要なもののように思える。